

(令和3年7月試験研究業務月報)

試験研究課題：輪作体系における特産豆類栽培での適正な土壌水分管理による安定収量の確保（令和3年度「豆類振興事業豆類助成金」）

研 究

## 小豆栽培での適正な土壌水分を目指して

京都府内の小豆機械化栽培での播種は7月下旬から始まります。年次によっては梅雨明けが遅く、土壌の水分が高くなり、過湿により生育量の確保ができない場合があります。

そこで、当センターでは、小豆播種<sup>はしゅ</sup>の安定化による生育改善の実現を目指して、6月30日に現地ほ場、7月19日に当センター内ほ場にて、チゼルプラウを用いて耕起を行いました。チゼルプラウ耕は、一般のロータリー耕より深耕でき、土壌の土塊の間隙が大きくなるので、より深いところまでの土壌物理性が改善し、降雨後に生じる滞水等による過湿から適湿への速やかな移行が期待されます。

7月19日に現地、7月26日に当センターで小豆の播種<sup>はしゅ</sup>を実施しました。今後、土壌水分の推移と小豆の生育・収量との関係性を解明していきます。



チゼルプラウ



トラクタでチゼルプラウを牽引し、耕起を行っている様子（農林センターほ場）